

はじめに・・・

4 月の南三陸町に引き続き今回も炊き出しを行いたかったのですが、季節的に食中毒の可能性があるため「夏物衣料」の物資提供を目標として物資を集めることから活動を開始しました。

ボランティア活動を行うにあたって、交通費やボランティア活動保険の補助などを利用するためには団体としての登録が必要とのことで発起人の海老沼が経営する会社を団体登録いたしました。

そして、海老沼の友人、知人、顧客、岩舟町、趣味で所属するキャンピングカー団体（C・C・C=キャメル・キャンピングカー・クラブ）、仕事関係の方々に物資の提供ご協力をお願いしたところ皆さん、またその話を聞いたという方々に広がり、ご支援をいただきました。

ご支援をいただきました皆様に、ご協力の御礼とご報告の意味を込めまして当レポートにて今回の支援活動の流れや被災地の状況をご報告させていただきたいと存じます。ただ、被災地の状況（特に避難所）の写真に関しては、撮影すべきでないと思えたので写真がありませんがご了承ください。

■ 物資の準備作業 6 月 19 日（日）

物資が届いても被災者に配ることのできない状況が続いているとニュースなどで聞いていた為「物資を被災地に置いてくるのではなく、被災者に直接届ける。」この趣旨に賛同してくださった方々から物資や資金をご提供いただきました。



実際に被災地に運ぶ作業は約 1 日でしたが、集めるための準備は約 2 ヶ月前からの行われ、仕事の関係先、個人的な繋がり、役場などにお声掛けしました。

上記の写真は 6 月 19 日の仕分け作業です。男性用・女性用、サイズ、品目別や新品以外も受け付けたため事前に仕分けを行い、段ボールにパッキング。

なんと段ボールの数は、60 ケース近くとなりました。

ご覧の通り会社の入口は、支援物資で埋まりました。（写真右上）

まさに溢れんばかりのお気持ちをお預かりいたしました。

宅配費用はすべて着払いとしましたし、やはり手渡しをすると言う事に共感してくれた方々が多くの衣類を提供してくださいました、ありがとうございます。

■ 出発当日 6 月 24 日（金）



6 月 24 日（金）朝から慌しく積み込み作業。
仕事のメンバーもいるため集合も出発時刻ギリギリ
となってしまった。

18:00 岩舟町出発

なんとか全員揃って岩舟出発！（右写真）
やけに大きい車が多いのは、社長の海老沼
が所属するキャンピングカークラブで
物資の提供や輸送にも参加していただい
たため。参加者総勢 23 名です。

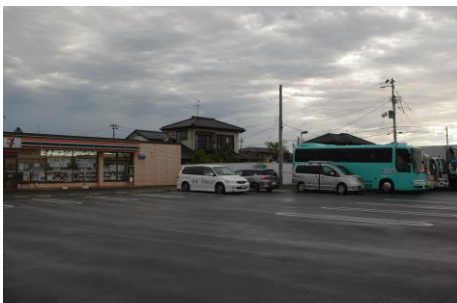
キャンピングカー 3 台、ミニバン 2 台の合計 5 台で出発です！



「栃木 IC」から東北自動車道にのり休憩を
はさみながら 23:30 三陸自動車道の
「鳴瀬奥松島 IC」出口。道中の国見サービ
スエリアでも中古車を積載して東北に向かう
キャリアカーも多かったが、料金所の
一般レーンも許可証での精算を行う車で渋滞
していました。

最寄のインターは「矢本インター」でしたが、復旧作業工事で通行止めのため、
1 つ前のインターで高速を降りました。

本日の野営地である東松島市の矢本航空自衛隊付近のセブンイレブンに到着
したのは 24 時を過ぎていました。



こちらのセブンイレブンでは、オーナーの
ご厚意で駐車場での車中泊やトイレ使用、
そして車内は物資が満載で就寝スペースが
なかったため店舗の空きスペースを設けて
一時的な物資の保管までしていただきました。
お陰様で皆が車内で寝る事が出来本当に助か
りました

此のお店も被災しており、従業員さんに衣類を提供しましたが遠慮
してなかなか受け取りませんでした、自分も被災しているのに現地の避難者に
渡してくださいと言っていました。 道路の反対側には一見被災しているよう
に見えない車が 500 台位ありました、車内が無残に泥だらけでした。

震災支援レポート ―女川―

2011 年 6 月 24 日～26 日

場所：女川町立総合体育館

【今回の行程】

地図上の地点 A＝出発地（栃木県岩舟町 海老沼総合保険）

地点 B＝宿泊地（宮城県東松島市 セブンイレブン矢本航空自衛隊前店）

地点 C＝目的地（女川町立総合体育館）



■ 2 日目 6 月 25 日（土）

昨晚は遅い到着だったため、ゆっくりと出発したい気持ちでしたが、目的地に向かう道中には満潮（満潮による浸水）で道路が通行止めになる箇所や混み合うという事前情報から 6：30 目的地である女川町立総合体育館に向けて出発です。

深夜の到着で真っ暗だったこともあり、周囲の状況は分かりませんでした。セブンイレブンは、ごく普通に営業されていたため、この周辺は内陸で被害が無かったのかと思えるほどでしたが、出発してすぐに目に飛び込んでくる光景は震災直後なのかと思うほど。（写真は次ページ）

海など全く見えないのに、道路のアスファルトは剥ぎ取られて、海岸の砂が道路や田畑に堆積して船や瓦礫（がれき）が残っていました。見渡す限りの大半の田畑が手付かず、おそらく海水が溜まっている状況なので農作物の生産を再開させるにはかなりの時間がかかると思われます。

震災支援レポート ―女川―

2011 年 6 月 24 日～26 日

場所：女川町立総合体育館



45 号線（石巻街道）。

比較的大きい店舗の立ち並ぶ道路で、海からも離れていますが、写真右手のように川沿いの道路で、堤防が決壊していました。通り沿いの店舗のほとんどが被災しており電信柱もかなり傾いています。



雨上がりの石巻街道午前 6 時半頃です。海岸部に近づくと段々瓦礫が多く目に入ってきました、建物は全壊状態でした内陸部でもこんなに悲惨な状況でした。南三陸は町そのものが、瓦礫となり目に入った瞬間自分の目を疑ったくらいのショックで、しばし言葉が出ませんでした。行くに連れて南三陸同様に周囲瓦礫の状態ではるかかなたの海岸が見渡せる状態でした、この光景を見る度に心が痛みます、テレビ画像ではまったく現実とは違いますね、朝から悲しくさえなりました。

石巻もこれから段々海岸沿いに

女川総合体育館（女川総合運動公園）

此の体育館は今回参加者の中に大平町の元ロスオリンピック重量上げ銅メダル獲得の砂岡良治さんも参加しましたが、砂岡さん曰く全天候型総合運動場だそうで相当高額費用がかかった総合体育館だそうです、そう言えば内の大型バスがコース内に入ってもへこみもしませんでした。

此の総合体育館には現在 6 6 0 人の避難者が 1 階と 2 階とに分けて入っております、震災時は 1 6 0 0 人が避難したそうです。

1 階は高さ 1. 5 メートル位のダンボールで間仕切りされており約 2 畳くらいのスペースには布団 2 組がいっぱいでしょう。これではそれぞれに扇風機を置かないと風は通らないが、置くスペースがないですね。

2 階は同じ仕切りですが、それぞれに蚊帳がつっており 1 階とはまったく異なっています、中を覗いてみると布団が敷いてあり勿論家財道具は何にも置いてありませんでした、タオルとかがかけてありましたけど、着替えもほとんど毎日同じものを着ているようでした、館内もハエもいたし臭いも有り何とも劣悪な環境と。カメラのシャッターを切ることが出来ませんでした。

ルース駐日米大使夫妻は米太平洋軍司令官のワイラード大将夫妻と共に体育館に慰問に訪れた際、沈痛な表情で「痛ましい惨状に言葉を失ったが、皆さんの力強く生きる姿に感動した、アメリカは日本の友人にどんな事でも支援していく」と地か強く述べ被災者から大きな拍手を浴びたそうです

また、プロゴルフアーの青木功、石川遼、中島常幸、池田勇太ら日本ツアー選手会が炊き出しをしてけんちん汁、豆腐チゲ 5 0 0 食、かき氷用意したそうです、池田は同県の東北福祉大学で学生生活を送ったそうで青いつなぎ姿で登場して「今日は皆さん笑顔になってください」と挨拶したそうです、またその後運動場でゴルフのミニレッスンをしたそうです。あんまり子供達が元気なので返ってこちらが元気を貰ったと記してありました。



この周辺は、小さな商店街のようです。
この一帯も 1 階部分は壊れており信号
の復旧もされていませんでした。



上の写真の 2 箇所とも驚いたのは、いずれも海沿いではなく河川の堤防が決壊
して商店街が被災したようです。



左の写真の突き当たりが川（旧北上川）です。



通行は可能ですが橋はボロボロの状態でした→
この橋（旧北上川）を渡ると「石巻街道」から「女川街道」に変わります。

石巻に向けて高速道等で何度も他府県の警察車両とスライドしましたが、現地
でも他府県の警察官の手旗信号を見ましたが、道路の粉塵を全身に浴びながら
交通整理をする姿をみて何度も「ご苦労様です」とつぶやきました。

南三陸支援の時でしたが、炊き出し食材を注文したら「何でこんなににんじん
等を使うの？」と聞かれたので震災支援ですと答えるとそれならこの代金は要
りません、被災者のために使ってと、また他のお店も訳を聞いて同じく食材を
提供してくれましたと参加者から聞きました。南三陸帰りに温泉施設に行くと、
車の張り紙をみて震災支援の帰りですか、ご苦労様ですとお風呂場で言われて、
翌朝は道の駅で朝ごはんを食べていた時は、やはり震災支援の張り紙を見て、
店の商品を出しておかずの足しにしてと、いただきました、また、道中交差点
ですれ違い際に対向車の人たちがお辞儀をしてくれたり、たいした事もしてい
ないのに東北の人達の心を感じた一瞬でした。

震災支援レポート ―女川―

2011年6月24日～26日

場所：女川町立総合体育館



結果的には目的地に向かうまでに満潮による通行止めや冠水は無く、スーパーのイオン石巻東店などの店舗も通常通り営業をしていました。

地図上は海から近いのですが、意外と高台なので無事だったようです。

しかし、目的地直前のJR石巻線「女川駅」付近で一変しました。



女川駅は跡形も無く凄まじい光景です。道路にはまだ残骸があり余り端には寄れず、神経を使う運転でした(パンクが怖いので修理業者もいないし)



建物が津波に押し倒され基礎の杭ごと抜けています。横倒しになった建物ビックリです、津波の恐ろしさ・・・・・・・・。

8：10 女川町総合体育館に到着

避難所となっている「女川町総合体育館」は女川町総合運動場の敷地内にありました。まずは、運動場内のボランティアセンターにご挨拶です。



写真左の体育館内に避難者の方々がいらっしゃいます。上の方のガラスは割れたままになっており、入口の前にはゴミが積まれていました。

この日は曇りで気温も 19℃ほどでしたが、車から降りると臭いました。

そして、非常に印象的なのが「大きいハエ」です。大きさとともに、その数も尋常ではなくピンクの花が咲くツツジの垣根を不気味に黒く覆っていました。

避難所内では蚊帳を利用しているそうです。

少々早く到着したため、9：00頃まではボラン

ティアによる朝食炊き出しが行われていました。その待ち時間にゴミ処理事業に携わる地元の方とお話する機会がありました。その方によると、ゴミの焼却は 1 日 1 トン程度しか処理できないそうで処理が追いつかず溜まる一方だそうです。

平日の食事は、朝食はパンやおにぎり程度で、休日は炊き出しボランティアの食事支援が行われているとのこと。炊き出し以外は暖かいものは無いとの事



9：00 配布の準備開始

いよいよ準備を行う段階にきて天候が微妙に。当初は外で行う予定の物資配布を体育館の入口（室内）で行うこととなりました。



避難所の共有スペースであるために非常に狭い場所でした。

ここで問題発生。ビニールシートを敷いて、物資を並べようとするが段ボールから持っていく方が。次第にその人数が増えてきて収集がつかなくなりました。あっ！という間にこんな状態に・・・。



物資は、主には夏物衣料でしたが、クール帯、下着、蚊取り線香などの虫除け、虫さされ薬、カレンダー、介護用オムツなどです。

当初は、この避難所で万が一に残ってしまったら違う避難所に持って行こうと心配をしていましたが、段ボールから並べることさえできず、直接段ボールから取っていくような状況となり、何が何処にあるという被災者の方々からの対応に我々は追われました。

あまりの混雑で、じっくり選んでいただくことが難しく本当に必要なものを持っていったら良かったかは分かりませんが、今後の生活の不安を被災者の皆さんが感じている象徴のようにも思いました。

避難所の方々とは別に、自宅での避難生活をされている方々に物資を配るボランティア団体の方へも提供をしました。一旦、配布場所に出してしまったため、ボランティアの方々が希望される品物を確保するのも大変でした。

そして、配布する物資が少なくなってくると、数に限りも有るため避難者の皆さんに十分満足できるほどの物資が行渡るわけもなく「もう終わりなの？」と言われることもありました。新品衣類 4 5 0 0 枚があつ、と言う間に終りました。物資があつても行政が配れない理由は、こういった不満者を出さない為なのかもしれないと思います。本当に手渡しにして良かったと思いました。

しかし、誰かがその役を引き受けなければ復興には向かわないとも思います。

約 30 分で物資は無くなりました。皆さんが必要としていたんですね。

9：30 片付け作業

避難所の入口通路で配布を行ったため、大急ぎで撤収です。

段ボールの片付けやビニールシートの撤去。

荷物を車に積み終わると外に人だかりが。



なんと子供向けに

「仮面ライダー」ボランティアの登場です！！

興奮気味の子供たちが、写真撮影などを行っていました。

10：00 現地を出発

昼食の炊き出しボランティアの予定が入っているとのことで邪魔にならないよう、ボランティアセンターにご挨拶

をしておいて早々に現地を後にしました。



三陸自動車道「矢本インター」へ県道 240 号線を通って向かいます。

この通りには、石巻漁港や工業団地が海沿いにありました。

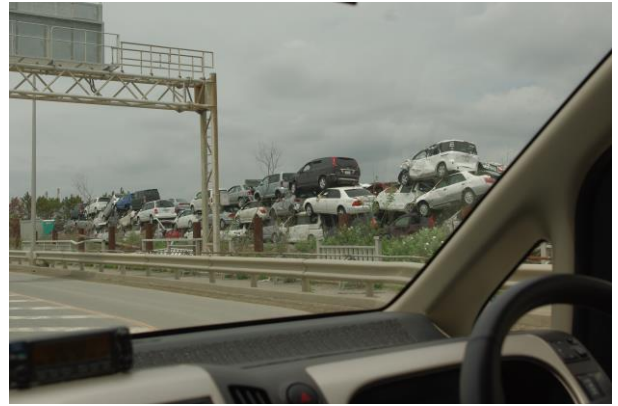
信号も復旧しておらず、交差点に警察官がいて手信号。

流されてきた大きな重油タンクも、工場の屋根にのったままの状態でした。舟はなぜか屋根に乗ったままだし、しばし言葉が失ってしまいました。

ボランティアの人に聞いたら毎日のご飯は 5 キロ離れた 1 軒しかないコンビニにまで買いに行き、お握り、カップめんだそうで頭が下がる思いです。お酒ビール焼酎を差し入れしました。



↑橋の上から工業団地方面



↑スクラップの車

「矢本インター」から途中のサービスエリアで昼食を摂り、東北自動車道「那須塩原インター」へ向かいました。

㈱海老沼総合保険のお客様のご厚意で、那須塩原町にある㈱藤坂さんの保養所に宿泊させていただきました。温泉で体を癒しました、夕食時には、参加者一人ずつ感想を述べて各自思っていることを共有しました。南三陸炊き出しの時は、全員に感想を聞いたら皆が泣きながら行って良かったと申し述べていました、私も思わず涙しました。

次回も同様又行きたいと話していました。

■ 3 日目 6 月 26 日（日）

10:00 出発



栃木に戻り、昼食を食べてから岩舟へ戻りました。

みんなで荷物を降ろし、車の支援シールを剥がして解散。

震災から3ヶ月が経過して、支援2度目の今回も瓦礫だらけの被災地を見て思うことは同じでした。「何から手を着ければ

良いのだろうか……。しかし出来ることをやらなければ何も変わらない。」何か少しでもやれる事はないだろうか？と思っている方々にとって当レポートがきっかけとなれば幸いです。皆さん本当にご苦労様でした。

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



23年9月23日(金曜日)

AM9:00

災害派遣従事者用車両「震災支援」のステッカーを張る
ボディには「がんばろう 東北」と願いを込めて。

この日は朝からスタッフ用のおにぎり弁当等の支度にたくさんの女性が応援に来てくれてほぼ2時近くまでかかってようやく出来ました、友達の友達

が来てくれて初顔合わせが何人かいました。41人分のおにぎりは大変ですね。有り難うございます

AM11:00

千葉県君津から参加の原田夫婦
朝早くから参加してくれました
右奥が永戸さん横浜から参加です、
そして左奥が國安さん、3人ともに4月末に岩手県宮古市に1週間炊き出し経験しています



PM16:30

本来なら前回同様各車両に分乗させて荷物を搬送予定でしたが余りにも多いので急遽栃木市小松運送さんに応援お願いをして4トンウイング車での運びとなった。ダンボール箱140箱、湯タンポ300個170箱となり4トン車満載でした。

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施

PM 21:00 東北道安達太良 SA にて

大宮から駆けつけてくれたキムラ食堂こと木村さんコーチメンミラダ10m 幅広車なため運転が大変です、三陸道では工事区間ではボール擦りながらの走行だったそうです。敬礼



左から鹿沼の大島さん、下野市の蓬田さん
栃木の小貫さん



佐野市から参加のプロドライバー上岡さん、
なくてはならない存在で3連続参加です
日野メルファ 9m



左から大島さん、東京から世取山さん蓬田さん
横浜から手お上げる岡田監督



日光から2回目参加の熊倉さん、右斎藤さん、
今回も子供のためにお菓子を自費で300
個も持参してくれました、焼きそば会場では一
人一人に「お孫さんにね」と言いながら手渡し
していました、優しいんだね。



震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施

コラボネット田中さん、大橋社長、大木さん



佐野から参加の松岡さん、上岡さん



神崎さん、通称かんちゃん



横浜から参加の永戸さん4月にも宮古に参加のスポーツ万能パラグライダーインストラクター73歳若い、本当ですか？

鹿沼の大島さん2回目ひとつ返事OK



震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



9月24日(土曜日)
AM 5時30分 天気晴れ
道の駅 津山にて
朝ご飯の支度、お味噌汁、
コーヒー、お茶と41人分
さすがに女性は手早い

男達はただボー然と立っているだけ

に、見えるでしょうが実はちゃんと動いておりましたよ。何せガスボンベ6本、五徳3つ、3升2つ4升炊きガス炊飯器3つ持参ですから。



9月24日(土曜日) AM 8:15



南三陸平成の森避難所仮設住宅到着 天気快晴
246棟

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施

4月に来たときはこの看板は無かった,被災者の皆さんが全国の皆さんに感謝のメッセージを表しているんですね、寄せ書きが沢山書いてありました



AM 9時:30 炊き出し開始



焼きそばは栃木色を出すためジャガイモを入れた、同時に中国氣功も開始5人

炊き出しは36人が焼きそば2班、残りはガス炊飯器で23升のごはんそして稲荷寿司作成と、てんや、わんやでした。

稲荷寿司3個、焼きそばで1人前です 焼きそば550食、稲荷寿司1600個

お米23升は3台のガス釜でかなり早く炊飯出来ました、稲荷には炊き立てごはんなので、手が熱くてなかなか思うようには出来なかったそうです。



震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施

奥の方ではガス炊飯器を使い次から次へと炊いておりました、さすがに女性は手際が良いですね、早い早い。23升炊いています

AM 11時30分

ようやく、出来上がりそろそろ配布に向け急ピッチで

この真剣な表情見てください



実は、男達のキャベツ、肉の大盤振る舞いで後に足りなくなります(泣き)

時間とともに避難者の皆様が続々と集ま

ってきました。

混乱を避けるため予定時間を繰り上げて11時30分配布開始です、3人ください、5人分、8人分とまた隣で斎藤さん、熊倉さんが子供達にとお菓子を用意300セットを配布していました。



250人、300人とだんだん増えてきました

1時間で完売でした550食焼きそばが2班でしたが間に合わない時がありました。

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施

おばさんは抱えて持っていました、口癖に有難うを連呼して



それぞれの方が風呂敷代わりにシャツを丸めて中に入れていました。

皆さんの笑顔がとても印象的でした



AM 9時00分

NPO 法人地球元気村による中国氣功の始まりです

順番に並んで受付しています

私たちが南三陸に着いた8時から待っていた人が数人いました、事前チラシが効いていたんですね、そう言えばあちらこちらにチラシが掲示してありました、やはり送っておいて良かった。



大宮から参加の古舘さんが説明しているところです。

氣功を受けた人に聞いたらとても不思議な感じだけど、何かスーとしたとか、楽になったとか、良かったと言っていました。

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



古舘さんとお話する避難者の皆さん

AM 10時

午前中だけでも100人以上こなしたそうです、勿論休みなしです。ご苦労様です。

4人同時に行います

1人15分位の癒しタイムです、それぞれの痛いところを重点的に。



中国氣功のスタッフさんは少しでも癒せればと思い真剣です。

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



皆さん癒されたでしょうか、ハーイピースです、良かった、良かった。



僕もお菓子貰いに来たよ、お母さんと一緒だよ

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



斎藤さん熊倉さんが子供のために自費でお菓子を300個
配布しています、毎回有難う



斎藤さん丁寧に配布です

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



炊き出し、氣功が終わりホットしたところです。南三陸平成の森福祉センター前 仕事の都合で今日帰る、蓬田さん、熊倉さん、斎藤さんわざわざ別車両で参加です 本当にご苦労様です。蓬田さんはこれから東京に向かいました。



左 村上社長
高岩社長
村上社長は今回器具、弁当、おかず、テント、衣類提供など惜しみない協力を頂きました。

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



炊き出し終了後、南三陸歌津地区にて被災者の供養にと全員でお線香をたいてお祈りしました、そう言えば4月の前回もこの近くで供養しました。

隣のセブンイレブンは仮設店舗で営業していました。まさに頑張れ東北ですね



9月24日(土曜日)

PM 19時30分

ホテル観洋にて
朝日新聞記者さんによる記者講演

今回の震災は人災だ
と言い切り、震災直
後に記者活動をした
が全国からまず民が
大きく動いたと、そ

のあと官が動いたと「余りにも大きな災害なので記事に表現できなかったと、それが1番悔しいと」言葉を詰まらせました、6か月が過ぎた今ガレキは片付いたが中身はほとんど変わっていない、行政の動きに不満を漏らしました、この講演は NPO 法人地球元気村主催ですが、親子参加でガレキ片づけですが遠くは九州からの参加者もいたそうです、その子供達に将来津波に対する対策を忘れることなく未来に語り続けて下さいと、その為に登壇したと言いました。



元南三陸役場職員のお話

魚釣りが大好きなん
でその日も釣りをし
たが一向に釣れず帰
宅したところ、大きな
地震で外に出たところ
見たこともない、引き
潮が有り「瞬間津波
が来ると」思い車を山
手に運び2台目を運
転しているときに津

波に襲われて窓から出て命拾いをしたそうです、勿論家屋敷は流されたそうです。1度避難して家に戻った人、津波を軽く考えて避難しなかった人みんな流されたそうです。

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施

9月25日(日曜日)AM5時30分 快晴



疲れた体ながら元気に手際よく朝食の準備、この朝は残りものながらオジヤ飯を、モツ煮、お味噌汁、コーヒー、お茶を作りました
どれもが美味しくいただきました。
デブまっしぐらですか(泣き)

岡田監督が何やら作っています
何でもできる岡田君、後に女川の子供からノッポとあだ名付きました。サッカーしたとき。

母さんと高岩社長



右下、上岡ドライバーさん
お玉を持ってモツ煮を混ぜています、滅多に見ない光景ですね、奥様に見せたね。

たぶん、家でもやってねと言われるかも(泣き)

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施

9月25日(日曜日) AM8時10分 女川総合体育館、小松運送すでに到着していました、すぐ様荷卸し開始 4トンウイング満載です、別便で急遽、南三陸避難所に行くため仕分けしながらの荷卸しとなる。



AM9 時予定通り 配布開始です、600人が着ている為30人ずつ仕切り選んで貰った為混乱は起きなかった枚数制限は勿論つけたが何度も順めぐりした為それぞれ袋いっぱい詰め込んだ湯タンポはすぐ完売しました。

昨日の南三陸のおばさんの冬物衣類が無いの一言で急遽、ダンボール50箱を運ぶため上岡ドライバー東森さんをキーマンでコラボ大橋社長、田中君大木君その他7名が向かった、往復3時間の道のり上岡さんご苦労様でした。皆さん良い仕事をしましたね。



震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



AM 10時30分

見てください、この長い行列
600人です。
衣類提供者さんは喜んでく
れると思います。



東北の人は礼儀正しく並ん
で待っていました

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



皆さんが沢山ダンボールで持って行かれました、この笑顔が見たかった



震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



ほとんどの人がダンボール箱でもって行かれました
このように手渡しが出来た事を嬉しく思います

終了後 子供達に遊んで貰った大人

ノッポ、メガネ、おやじとあだ名を付けられました(泣き)



お蔭で子供達から元気を貰ったおやじ達(笑い)

カズさん、世取山さん、岡田監督、松嶋さんおやじ軍団(ガッソーン)

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施



被災者の方、千葉さん(中央) 話していたら突然泣き出してしまいました、思い出したそうです。後に衣類を送りますからね、皆が優しく話していました。大竹豊子さんは自分の着ているカーデガンを抜いてあげていました。



わが方の美人達(ホントだよ) いい顔してるね。

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施

PM 2時00分



全てが終了して、全員集合です これから帰途になるところです。

石巻イオンで昼飯を買い出し、走りながらの昼ごはんでした。

東北道に入り途中、木村さんその他のドライバーさんが眠いを連呼したが休憩を挟みながら何とか、上河内 SA に着いたのが PM 9時30分遅い夕食を取り解散しました、横浜組は帰宅が深夜3時半だそうです 参加者の皆様 本当にご苦勞様でした、惜しみない協力を頂き心から御礼申し上げます、今回の中国氣功、炊き出し、衣類配布と盛りだくさんでしたが、たぶん一時でも被災者の癒しになれたと思います、私たちボランティアには限りがありますが、出来る範囲で出来る事をしたいと考えております、どうか今後ともご協力ご支援をお願い申し上げます。 本当にご苦勞様でした。

合掌

BY 海老沼 卓

震災支援レポート 南三陸、女川編

2011年9月23日～25日

場所 南三陸平成の森仮設住宅炊き出し、中国氣功及び女川総合体育館冬物衣類配布、中国氣功実施

参加者名簿 敬称略

1 村上悦子	23 加藤美男
2 雲田里子	24 加藤栄子
3 上岡正恵	25 佐藤洋子
4 松岡紘美	26 古舘忠夫
5 海老沼美穂子	27 大橋宗徳
6 上岡正	28 田中俊介
7 高岩淳郎	29 大木剛
8 永戸宏	30 小島絵美子
9 原田誠一郎	31 染谷敏夫
10 原田良子	32 大川浩美
11 神崎照子	33 大島一伸
12 海老沼雅子	34 世島山博こうざん
	35 松岡縁
14 黒崎健一	36 松岡和樹
15 笠原由香里	37 倉持
16 小貫敏隆	38 染谷
17 松島央行	39 大川
18 岡田将志	40 海老沼菊枝
19 木村政功	41 海老沼卓
21 斎藤正幸	
22 熊倉礼子	